

日本大学における学び

1 大学で学ぶということ

》学ぶ主役は学生の皆さん

大学で学ぶには、教員の指導を受けるだけという受け身の姿勢ではいけません。学修^{*}の主体者である学生の皆さんが「自ら学ぶ」という積極的な意志を持つ必要があります。

社会的には、大学生になると、未成年であっても自己責任が問われます。授業では、高校時代のように固定したクラスではなく、履修科目により教室が変わります。一番変わるのは、学ぶ姿勢です。大学では、高校までの受動的学習から能動的学修へと変わります。また、初年次の学修への姿勢が今後の大学生活へ強く影響を与えます。

学生の皆さんには、「学修の主体は自分自身である」と強く認識することが求められます。



学修と学習

「学修」とは、大学で“学び”,教育課程を“修める”こと。学部等ごとに定められた「教育研究上の目的」を達成するために学ぶ行動を指す。知識や経験を蓄える「学習」とは区別して用いられる。

》大事な主体性と目的意識

あなたが日本大学に入学した目的は何でしょうか。自分自身の教養を高めたり、技能を身に付けたりするためではないでしょうか。学生生活で学び、修得したものを卒業後の生活に反映させ、充実した人生を送るとともに、そうした生き方を通して社会に貢献できる人間に育ってほしいというのが教職員の一致した願いです。

何のために大学に入学したのかをあらためて考えてください。何となく入学し、漫然と所定の修業年限*を過ごすのと、入学時から「自ら学ぶ」という主体性を持って学修するのとでは、卒業時における人間としての力が全く違うものになります。

大学に入学したことの意味を自分自身に問い、目的意識を持って、自分自身のために「自ら学ぶ」という強い自覚の下、学生生活を送ってください。

》批判的なものの見方

高校での授業は、先生に言われたとおりノートを取り、1つの答えを導き出すために、文法や方程式などを暗記するのが学びの主なスタイルでした。しかしながら、大学では、「答えのない問い」に対して考えを導き出さなければなりません。また、科学技術などは日進月歩で変容しています。今日、修得したことが、将来違った解釈に変わる可能性もあります。そうした大学での学びでは、批判的にものを見ることが重要です。批判的にものを見るとは、「非難する」のではなく、他者の意見がどのような事実に基づいているのかといった根拠を確かめて、多面的・客観的に理解し、自らの考えを吟味することです。それには、他者の意

修業年限

教育課程を修了するために必要な在学期間。在学することのできる「在学年数」とは異なる。

見に耳を傾けることが重要となります。さらに、そこで得た情報を自分なりに解釈して、自分自身の考えとして発信したり、議論したりすることが大学での学びでは必要になってきます。

こうしたことは、すぐに身に付くものではありません。大学での学修を通して、じっくり身に付けていくようにしましょう。

》大学のプログラムに参加

高等教育の先進国であるアメリカでは、「教育の質を保証しなければならないのは、当事者の大学である」という考えが生まれています。こうして、初年次教育*、インターンシップ*、サービスマーケティング*、キャリア教育*などきめ細かいプログラムが作られるようになりました。全ては学生の皆さんが、卒業後に成功を勝ち取るために考えられています。

これは日本でも同様です。初年次教育では、スタディスキルズ (p.20 参照) の修得、自らの意見を表現する方法などの指導があり、将来に向けたキャリア教育も熱心に展開されるようになりました。キャリア教育は、人生の進路・生き方を学ぶものです。それらは単一の科目やプログラムの受講で身に付くものではなく、大学での4年間の学びを通じて考えていくものです。

また、日本大学では、人生の進路を考えるという観点から、進路選択に関わる指導のほかに、業界セミナーや公務員対策講座など就職に直結する内容のプログラムを多くの学部で実施しています。このようなプログラムを生かし、学生自身が、それぞれの学修の場においてキャリア意識を高める努力をすることが大切です。

学生の皆さんは、目的意識を持ち、自身の特性や将

初年次教育

1年次生を対象に、レポート作成や資料収集など、大学における学修に必要な基本的な知識・技能・態度を伝える教育。

インターンシップ

企業実習。在学中に企業等で業務の実習を経験すること。希望する職業の内容を実際に理解し、学生と就業先との認識の相違を解消して、自らのキャリアを描けるという利点がある。

サービスマーケティング

学んだ知識や技能を地域貢献活動等に生かすことを通して、市民的責任や社会的役割を認識してもらうことを目的とした教育方法。

キャリア教育

学生一人ひとりのキャリア発達を支援し、それにふさわしいキャリアを形成していくために必要な能力や態度を育てる教育。大学は就職と直結するため、正課内教育のほか、各種の就職支援もキャリア教育の一環として実施されている。

来の方向を考えながら、大学の提供する授業以外のプログラムにも積極的に参加しましょう。何となく大学へ入学してきたと考えている人にとっても、将来、自分が進みたい方向を見つける絶好の機会になるでしょう。

》友人とのコミュニケーション

大学は、高校のように決まった場所で同一の学生と同じ講義を受講するわけではありません。必修科目以外は、自分が興味を持った科目を主体的に選びます。必修科目では、同じ学科等に所属する学生とともに受講しますが、総合教育科目などでは、自分とは異なる学科に所属する学生や、出身地の異なる学生と接する機会があり、多くの情報や気づきを得ることができます。日本大学のように多分野の学問領域があり、全国から学生の集まる大学では、コミュニケーションに磨きをかけることができるでしょう。自分の所属する学部・学科だけでなく、外に目を向けて多くの友人をつくり、学生生活を楽しむことが大切です。



教養教育の重要性

教養教育と自主創造

大学4年間（短大は2年間、医療系は6年間）の教育は、「学士課程教育」と呼ばれ、一般的に教養教育と専門教育に分けられていました。

しかし、近年の教育カリキュラムの改変により、多くの学部で教養教育と専門教育が融合した形態をとるようになりました。例えば、医学部では、1年次に語学などの教養科目と専門科目が融合したカリキュラムとして、英語による「医学英語」が開講されています。

それでは、「教養」とは何でしょうか。中学や高校在学年齢に相当する青年期は、自己を確立し、成人となる基礎を培う重要な時期です。そのため、中学・高校における教養教育は、自己の確立と、成人へとつなげるための教育中心で、比較的一律に行われてきました。

平成22（2010）年の日本学術会議では、21世紀に期待される教養を「現代世界が経験している諸変化の特性を理解し、突きつけられている問題や課題について考え探究し、それらの問題や課題の解明・解決に取り組んでいくことの出来る『知性・智恵・実践的能力』

である」と述べています（21世紀の教養と教養教育）。

この考えは、まさに日本大学の教育理念である『自主創造』の考えに含まれる内容です。本学での自主創造の教育理念を完遂できれば、本世紀に期待される教養を身につけることが可能だと思えます。

豊かな教養は社会のニーズ

現代社会は、総合的な教養力を身につけた人材を必要としています。これは、現在社会のますますのグローバル化と、アメリカなどでのリベラル・アーツ^{*}の考えによるものと考えます。大学教育は教養と専門の二者から構成され、近年、特に教養教育の重要性が強調されています。当然、総合的な教養力は、就職でも重要なポイントとなっています。

日本大学に入学した皆さんは、日本大学で身につけた総合的な教養力と専門教育を融合させ、これからの日本そして世界へ羽ばたくことを目指し、日々学修しましょう。（全学FD委員会教育情報マネジメントワーキンググループ）

*専門職業教育としての技術の修得とは異なり、思考力・判断力のための一般的知識の提供や知的能力を発展させることを目標とする教育。

2 “自主創造”とは

》日本大学の「目的及び使命」

日本大学は、「日本大学学則」（第1章第1節）に「目的及び使命」を、次のとおり明示しています。

「日本大学は、日本精神にもとづき、道統をたつとび、憲章にしたがい、自主創造の気風をやしない、文化の進展をはかり、世界の平和と人類の福祉とに寄与することを目的とする。

日本大学は、広く知識を世界にもとめて、深遠な学術を研究し、心身ともに健全な文化人を育成することを使命とする。」

この「目的及び使命」は、時代の推移に即応して数回の改訂を経ていますが、その淵源は、明治22（1889）年に創立された本学の前身である日本法律学校の設立主意書に求めることができます。

》日本大学の教育理念「自主創造」

平成19（2007）年度には、本学の新しい教育理念を「自主創造」とするとともに、ロゴマーク「N.」（Nドット）と、キャッチフレーズ「あなたとともに 100万人の仲間とともに」（次ページ参照）を定めました。

“自主創造”とは何かをまず考えてみましょう。そして学年が上がったら、また考え直してください。きっと社会に出てからも、この“自主創造”の理念が人生の礎となってくれることと思います。

「自主創造」を新理念としたのは、学則の「目的及び使命」にうたわれていることに加え、「自主創造」

の気風に満ちた人材の養成が今まさに社会で求められているからです。21世紀が知の世紀と強調され、その知は「積極的な知」、つまり、「自主創造の知」であり、国際化に対応できる人材の特性が「自主創造」であることによります。本学でそれぞれが学ぶ領域や活動体験を生かし、「自主創造」のできる人材の養成を目指します。

ロゴマークは、日本大学カラーの「緋^{*}」色を使用し、頭文字「N」を力強く躍動感のある書体で表しています。「N」の横のドットは、建学の精神・理念である「日本精神」「日本の伝統・文化の尊重」「個の尊重」とともに「輝く太陽」を意識しています。

キャッチフレーズの「あなたとともに 100万人の仲間とともに」は、愛情を込めた連帯感を表現しています。校友100万の絆とパワーを表し、他の大学にはない本学の特色を打ち出したものです。

なお、各部科校^{*}では、本学の「目的及び使命」「教育理念」に基づき、それぞれ独自の「教育研究上の目的」を策定しています。所属する学部等のホームページを確認してください。



自主創造
日本大学

あなたとともに
100万人の仲間とともに

緋色

濃く明るい赤。ページ下のロゴマーク参照。

部科校

日本大学が設置する大学院・学部・通信教育部・短期大学部・高等学校・中学校・小学校・幼稚園および専修学校を総称した呼称。

学生によるFD活動

学生の視点で教育改善

日本大学では、FD活動を教員個人が取り組むものではなく、教員、職員、学生の三者が組織的に展開するものと位置付けています。その中で、学生が果たすべき重要な役割は、授業を受ける側の視点からの提言にあります。

かつて、日本の大学の授業形態は、教員が一方的に講義を行い、学生は黙って聴くだけというものが主流でした。しかし、昨今では、学生と緊密にコミュニケーションを取りながら進める双方向型授業や、学生が能動的に参加するタイプの授業の有効性が認められるようになりました。現在、学生から授業の進め方や内容について意見を聴き、それを生かして大学教育を改善していくことの意義が認識されています。

全国の大学が交流

学生主体のFD活動をより活性化させるため、全国の大学が参加する「学生FDサミット」が、年2回、開催されています。



「学生FDサミット2015夏」で発表する学生。

「学生FDサミット」では、学生によって、各大学におけるFD活動の取り組み内容の報告や、情報交換が行われます。参加者は、他大学の取り組みを知り、自分の大学でそれを生かす道を模索します。

学生によるFD活動は、大学での授業を、興味深く、有意義なものとするために大変有効なものです。積極的に授業の内容や進め方に対して提言を行っていく活動だといえるでしょう。

本学における特筆すべき学生FD活動として、例えば、文理学部で平成25(2013)年度から毎年開講されている学生発案型の授業を挙げることができます。この授業は、前年度の秋に学生が企画し、それを担当できる教員に依頼して、教員が決まった後に教員と学生が授業の進め方や内容について話し合いを重ねて開講されます。平成26(2014)・27(2015)年度は、「2020年オリンピックの姿」というテーマで複数の教員によるオムニバス形式の授業が行われ、多数の学生が履修しました。(文理学部教授 古田智久)



文理学部の学生発案型授業。

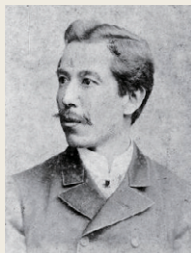
日本法律学校として設立

日本大学の前身である日本法律学校は、明治22（1889）年10月4日に創立されました。大日本帝国憲法が公布され、また欧米の近代法を取り入れた刑法・民法・商法などの諸法典も整備されつつある時期でした。

司法大臣の山田顕義^{あきよし}は、それまでの欧米諸国の法律を学ぶことが主流の法学教育に疑問を持ち、日本の伝統・慣習・文化を踏まえた日本の法律を教育する学校構想を抱いていました。

同時期、宮崎道三郎・金子堅太郎などの若き法律学者たちも、日本法学教育の必要性を認識し、山田とは別に日本法律学校設立構想を進めていました。同様の構想を進めていることを知った山田は、宮崎らを全面的に支援し、日本法律学校は創立されました。

現在、日本大学では、創立に関わった法律学者など11名を創立者とし、彼らを全面的に支援した山田顕義を学祖として顕彰しています。



設立者総代
宮崎 道三郎



初代校長
金子 堅太郎



学祖 山田顕義

学祖 山田顕義の活躍

山田顕義は、弘化元（1844）年、長門国萩（現山口県萩市）で、山田顕行の長男として誕生しました。吉田松陰の松下村塾に入門し、幕末から明治初年にかけては、軍人としての才能を発揮します。特に戊辰戦争では、新政府軍を率いて、東北諸藩および箱館五稜郭の旧幕府軍平定に功績を挙げました。

明治4（1871）年、岩倉使節団に理事官として随行し、欧米諸国の軍事制度を調査研究します。

帰国後は、司法省に勤務して近代法整備に尽力しました。その後、参議兼工部卿、内務卿、司法卿を歴任し、明治18（1885）年、内閣制度発足に伴い、初代司法大臣に就任しました。

教育面では、明治22（1889）年には皇典講究所所長に就任し、同所内に日本法律学校を創立しました。

明治25（1892）年11月、山口亀山における旧藩主毛利敬親等銅像起工式出席の帰路、生野银山（現兵庫県朝来市生野町）を視察中、49歳で急逝しました。

創立の目的

日本法律学校の創立目的は「日本法律学校設立主意書」に記されています。これを要約すると、(1)日本の法律は新旧を問わず学ぶ、(2)海外の法律を参考として長所を取り入れる、(3)日本法学という学問を提唱するという3点です。

欧米法教育が主流な時代にあって、日本の法律を教育する学校の誕生は、大いに独自性を発揮することとなりました。



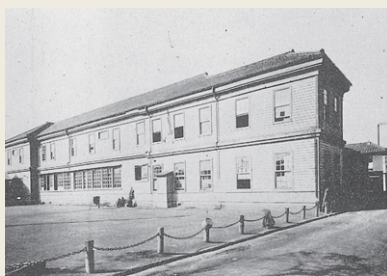
日本法律学校広告

千代田区に校舎建設

日本法律学校開校当初は、飯田町（現東京都千代田区飯田橋）にあった皇典講究所の一室を借りて授業が開始されました。明治23（1890）年には國學院（現國學院大學）も同所に創立され

たため、昼は國學院、夜は日本法律学校が同じ場所で授業を行いました。

明治29（1896）年、日本法律学校は神田区三崎町（現千代田区三崎町）に初の独立校舎を取得しました。これが現在の法学部本館のある場所です。



明治期の校舎

日本法律学校から日本大学へ

明治36（1903）年、日本法律学校は、校名を日本大学として大学組織に改め、翌37（1904）年、専門学校令による認可を受けました。

大正9（1920）年、大学令による大学となり、本学は総合大学への道を歩むこととなります。

大正12（1923）年の関東大震災では全施設が壊滅的な被害を受けましたが、すぐに復興を成し遂げ、人文・社会・芸術・自然・医歯系の広範囲に及ぶ教育組織を整備しました。

（広報部広報課）

年表

明治22(1889)年	10月	日本法律学校創立
明治26(1893)年	7月	第1回卒業式を挙行
	12月	校友会を結成
明治31(1898)年	3月	高等専攻科を設置し、卒業生に日本法律学士の称号を授与
明治34(1901)年	10月	高等師範科(現文理学部)設置
明治36(1903)年	8月	日本法律学校の組織を改正し、校名を日本大学とする
明治37(1904)年	3月	専門学校令による大学となる
	3月	商科(現経済学部ならびに商学部)設置
明治39(1906)年	8月	初の留学生を欧州に送る
大正3(1914)年	4月	「建学の主旨及綱領」を制定
大正9(1920)年	4月	大学令による大学となる
	4月	初めて女子入学を許可
	5月	校歌を制定
	6月	高等工学校(現理工学部)設置
大正10(1921)年	3月	法文学部に美学科(現芸術学部)設置
	4月	東洋歯科医学専門学校(大正5年創立)を合併(現歯学部)
	9月	大学色を「紅」に決定
	10月	日大新聞(現日本大学新聞)創刊
大正11(1922)年	3月	大学旗を作製
大正14(1925)年	3月	専門部医学科(現医学部)設置
	3月	大阪に日本大学専門学校(現近畿大学)設置
昭和4(1929)年	5月	新校歌を制定(現校歌)
昭和10(1935)年	10月	日本大学本部・図書館竣工
昭和13(1938)年	10月	創立50年記念式典挙行
昭和18(1943)年	5月	農学部(現生物資源科学部)設置
昭和22(1947)年	3月	専門部工科(現工学部)を福島県郡山市に移転
昭和23(1948)年	11月	通信教育部を設置
昭和24(1949)年	4月	新学制による大学となる
昭和25(1950)年	4月	短期大学(現短期大学部)設置
昭和27(1952)年	2月	工業経営学科(現生産工学部)、薬学科(現薬学部)設置
昭和33(1958)年	6月	日本大学講堂設置
昭和34(1959)年	9月	「目的および使命」を改訂
	10月	創立70周年記念式典挙行
昭和46(1971)年	4月	松戸歯科大学(現松戸歯学部)設置
昭和54(1979)年	4月	国際関係学部を設置
昭和57(1982)年	7月	日本大学会館設置
平成元(1989)年	10月	創立100周年記念式典挙行
平成6(1994)年	10月	総合学術情報センター設置
平成19(2007)年	6月	教育理念を「自主創造」と決定
平成22(2010)年	6月	桜門会館設置
平成28(2016)年	4月	危機管理学部、スポーツ科学部設置

Message

日本大学における学修①

人前で発言する力をつけよう

薬学部 教授 伊藤 芳久



大学は、正解のない課題を探究していく場です。高校までの学習は、先生が知識を教え、生徒はそれらを覚えるスタイルが中心だったと思います。大学にもそのような講義形式の科目はありますが、ほかにもゼミや演習、実験、実習などがあり、学び方は多彩です。

薬学部では、多くの科目で、アクティブ・ラーニングが取り入れられています。これは、学生が主体的に学修することを目的とした手法で、学生同士のグループでのワークやディスカッションなどが挙げられます。人前で意見を言うのは苦手という人がいると思いますが、そうした人こそ1年次から発言の練習を積んでください。専門分野を深く学ぶにつれ、自分1人では解決が難しい課題が出てくるようになりますが、グループで課題に取り組むことで解決の糸口が見えてきます。メンバーそれぞれが持てる知識を出し合い、議論すれば、1人で考えるだけでは得られない新しいアイデアも生まれてきます。

授業では学生の発言の場があるように、さまざまな工夫がなされています。例えば、薬学部1年次の必修科目「自主創造の基礎1」では、7、8人のグループでディスカッションし、その結果を発表す

るという活動を行っています。1つのグループの人数が少ないので、毎回、発言の機会があります。「目を見て話したほうがよい」「口をもっと開けたほうがはっきり聞こえる」など、気づいたことを互いに伝え、相手に伝わる話し方を学べるようにしています。

主体的に学修するためには、予習は欠かせません。何の知識もないまま、先生の説明や友達の見解を聞いても、その意味を理解できませんし、グループワークのある授業では、メンバーに迷惑をかけてしまうことにもなります。シラバスには、各回の授業計画と予習・復習すべき内容が示されています。また、私の担当科目のように、予習のポイントとなる課題をLMS（学習管理システム）にアップしている科目があるかもしれません。そうした教材などを利用して、予習をしっかりして授業に臨みましょう。

IMMEDIATE FEEDBACK ASSESSMENT TECHNIQUE (IF AT®)					
Name _____	Test # _____				
Subject _____	Total _____				
SCRATCH OFF COVERING TO EXPOSE ANSWER					
A	B	C	D	E	Score
1.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	_____
2.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	_____
3.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	_____
4.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	_____
5.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	_____
6.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	_____
7.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	_____
8.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	_____

予習した知識が身についているかどうかを、スクラッチカードを用いて確認することもある。

3 日本大学で学ぶということ

》自ら考え、判断する力

大学では、専門教育科目だけでなく、知識人として必要な一般教育科目や総合教育科目を広く学びます。また、大学での学びは、教員の講義や教科書・参考書の内容を正しく理解することにとどまりません。むしろ、**自らが考え、判断する力を養う**ことが大切です。高校までは、ともすると受け身の学習姿勢が主でしたが、大学では主体的に学ぶ積極性が特に求められます。

大学では、学年を追うごとに専門教育科目が増え、それに伴って、より多くの知識が必要となります。そのため、本格的な専門教育科目を学修する準備段階として、なるべく早期に、できれば初年次修了時まで**基礎学力を身に付ける**ことが必要です。

さらに、国内はもとより諸外国で、より良い人間関係を築くためには、日本語・外国語の語学力が不可欠であり、コミュニケーション力を身に付けなければいけません。それらを学ぶことが、人間性の向上にも深く関わっているからです。



外国人留学生と交流する日本人学生。

ゼミの授業風景。自分自身で考えることが大事。



》日本大学が育成を目指す人材像

日本大学では、教育理念「自主創造」の下、日本大学が育成を目指す人材像を「自主創造型パーソン」と定めています。これは、激しく変化するグローバル社会、不確実性の高い社会環境、価値観の変化、突発的な天災などの状況下においても自ら考え行動できるような、卓越した創造力・判断力・コミュニケーション力を持つ、人間力豊かな人材のことを示しています。言葉だけを見ると、難しいことのように感じますが、大学が提供するカリキュラムや各種プログラムに対して主体的に取り組むことにより、自然と身に付くものなのです。

また、「自主創造型パーソン」となるには、課外活動も重要となってきます。大学の講義だけでは身に付かないこともたくさんありますので、積極的に課外活動に参加し、大学生活を有意義なものにしてください。



》多種多様な人とのつながり

日本大学は、多くの学部・学科、キャンパスを有する日本最大級の私立総合大学です。学生も全国各地から、様々な目標を持って集まっています。地理的に遠い学部もありますが、ゼミナールやサークル活動などを通して交流することができます。同じ日本大学へ入学して、異なる目標の下、異なる環境で異なる学問分野について学んでいる学生と知り合い、切磋琢磨することにより、様々な学びが得られます。

教員の研究分野も多様です。大学では、通常、2年次以降にゼミナールや研究室に所属し、1人の指導教員の下で自らの専門分野について学修する形式が主流です。しかし、専門分野を学ぶうちに、その周辺分野の学びも必要になってきます。その際は、指導教員に相談し、助言してもらえる教員が自分が所属する学部内だけでなく他学部にもいないか調べてみましょう。そのような教員がいたら、アポイントメントをとって訪問し、直接意見を伺うことも大切です。

卒業生数日本一の日本大学は、社会のどの分野においても卒業生と出会うことができます。就職活動の一環で行うOB・OG訪問では、日本大学の規模とその利点を最大限に感じることができるはずです。社会に出てからも、その有用性を感じることでしょう。

》学びをサポートする種々のしくみ

日本大学は、学生の学びをサポートする種々の体制を整備しています。初年次には、リメディアル教育科目*、スタディスキルズ*等、大学における学修への橋渡しとなる科目を設置しています。また、日本大学の中で他の学部・学科の授業を受講できる「相互履修制

リメディアル教育科目
補習教育科目。大学教育を受けるために必要となる基礎的な知識を学ぶ。

スタディスキルズ
ノートの取り方、レポートの書き方、資料の探し方など、大学での学びに必要な学習方法や、専攻分野特有の専門的な学習技術を身に付ける科目。ウォーミングアップ学習として位置付けられる。

度」があります。卒業までの履修計画の中で、自身の専門以外に興味のある科目を受講してみてもよいでしょう。

それとは別に、学部等によっては学習支援センターなどを設け、基礎学力の向上を積極的にバックアップしています。また、学生相談室には、インターカー*や相談員が随時待機していて、学生生活全般について相談ができます。さらに、オフィスアワー*では、各教員が担当する科目の質問や種々の相談に応じています。

自分の第一希望だった学科に入学できなかつたり、在学中に自分の専門に興味を失ってしまう学生もいるでしょう。大学生活全般で少しでも不安に感じたり、違う勉強をしてみたいと感じるようになったら、教務課や教員に相談してください。

日本大学の学生であることを自覚するとともに、これらのサポートを有効に活用し、より充実した学生生活を送ってください。

インターカー

受理面接者。依頼者に会って内容を把握し、最適な相談者や機関を紹介する。聴く技術、把握する知識があり、良い関係づくりができる人。

オフィスアワー

下のコラム参照。

COLUMN

オフィスアワー

オフィスアワーは、学生の皆さんが教員に聞いてみたいことや、相談したいことがあった場合、**直接、教員と話ができる時間**です。基本的に、疑問点などがあればいつでも教員を訪ねてよいのですが、教員も授業のほかに会議などで、研究室に不在で対応できないこともあります。あらかじめ設定されているオフィスアワーを利用すれば、こうした問題は解消されます。

学生の皆さんは、シラバスなどに記載されている各教員のオフィスアワー

の時間と場所を調べ、気軽に教員を訪ねてください。授業や事前学習の疑問点解消のため、積極的に活用するとよいでしょう。



オフィスアワーに、先生の研究室を訪問し、相談する学生。

学生の1週間の予定・アルバイト

授業時間数と同じだけの
学習時間を確保

教員が新生に伝えたいことは数多くあります。専門性を身に付けるとともに、それを獲得する上でも重要なアカデミック・スキルズを習得することが代表的な例です。ただ、まず初めに考えてほしいのは、大学生活に多くの期待を抱えている今だからこそ、近い将来、あるいは遠い将来に向けてやりたいことを明確にして、卒業までの計画を立て、それを踏まえた1週間の計画を練ることです。その際、少なくとも次の点に留意してください。

履修科目が決まると、その前後の空き時間や授業のない曜日などが見えてきます。例えば、年間40単位は修得するとして、半期で20単位10科目、仮に1限目から5限目まで授業を詰め込めば、2日間で必要な科目数を履修することも可能です。「時間が空いているからアルバイトでも入れよう」と考えているのなら、大学の単位修得を少々軽く見ているのか、既に大学での目標を見失っているのかもしれない。

大学における単位修得の前提は、授業への出席はもちろん、その前後の自習（予習・復習）も含まれています。まずは、授業時間数と同じだけ（できればそれ以上）の学習時間を確保してください。科目によって必要な学習時間に差があります。少なくとも5月、

できれば前期終了までは、自分の力量を測る期間として、空き時間の使い道を見極めましょう。単位修得だけを目指とするのではなく、理解の水準や専門性の到達目標を高く設定していれば、それほど空き時間は作れないはずです。

学業を優先した
アルバイトの設定

仕送り額がどちらかといえば低い方だった筆者は、生活費を補うためにアルバイトをしていました。周りの友人と同じように、親睦会や部活動の合宿に参加しようと思うと、アルバイトの量が必然的に増えました。日中は授業があるので、夕方から夜にアルバイトをしていましたが、週4日入れていたころは、1限目の授業にあまり出席できませんでした。しかも、突然、追加を頼まれることもあり、実際には週4日以上時間をアルバイトに費やしていました。当時の自分は強い意志で断ることもできなかったのです。

最終的に、アルバイトは週2日程度に抑えることにし、お金の掛かる大学生活は諦めました。時間を自分のために「投資」できる生活に変えたわけです。「あきらめる」を「明らかに極める」の意味ととらえれば、案外、大学生活で「あきらめる」ことも重要なかもしれません。

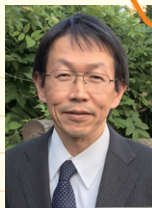
（全学F委員会教育情報マネジメントワーキンググループ）

Message

日本大学における学修②

先生の話をしっかり聴こう

工学部 教授 石川 博康



授業中、先生の板書をノートに書き写すだけで大丈夫と安心していませんか。高校までの学習はそれで十分対応できたかもしれませんが、大学では、先生が話す内容のほうが重要なことがよくあります。先生が「ここが大切です」「この内容は2年生の〇〇で使います」などと説明する場合は、学生にぜひ覚えてほしいからです。それらをきちんと押さえていくかどうかで、理解度に差がつきます。

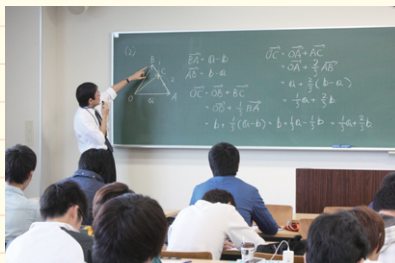
先生の話に耳をしっかり傾け、重要事項をつかんでノートに書く練習を1年次から積んでください。先生の話そのまま書きとめるのではなく、聴いた内容を自分の言葉に置き換えるのがポイントです。最初は話に追いつけなくても、諦めずに続けていくうちに、要点が頭に入ってくるようになるでしょう。

私の授業では、学生が板書をノートに写す時間を確保し、説明する時間と分けています。また、ほかの科目に関連する事項は、明確に伝えるようにしています。特に、専門科目はそれぞれが独立した学びではなく、すべてが関連しているからです。そうした関連性をノートに記録しておき、進級時にはそれを見直して復習し、次の学びに生かしましょう。

学びを深めるためには、友達との存在も

大切です。同じ学部・学科の学生は、これから同じ学問を学び、切磋琢磨していく仲間です。先生に質問するのは気後れしても、友達になら気軽に聞けるでしょう。友達でも分からなければ、その人の友達に聞く。そのようにして3人、4人、5人と友達を増やしていくとよいと思います。

例えば、私が担当する「電磁気学」では小テストを半期に5回行いますが、テスト前には学生が自主的に集まり、勉強会を開いているそうです。再履修者が多い科目ですが、友達同士で頑張っている学生のほうが成績が良い傾向にあります。質問する側が疑問を解決できるだけでなく、教える側も相手がわかるように説明することによって理解がさらに深まるからでしょう。学び合いは、学修の質を高めるために有効な方法です。



重要事項は色付きのチョークで書き加える先生もいる。もらさず書き取ろう。

4 日本大学を卒業した証し

》学位の授与

学位とは、大学を卒業した人や大学院の課程を修了した人に対して授与される称号です。学部等によって定められたディプロマ・ポリシー*の下、修業年限に達し、所定の授業科目および単位を修得して卒業した学生に「学士」（学部）、「短期大学士」（短期大学部）の学位が授与されます。

学位は、「学士（〇〇〇）」のように表記され、（〇〇〇）の箇所には専攻分野の名称が入ります。例えば、法学部を卒業すると「学士（法学）」となります。

卒業と同時に学位を授与する大学では、いわゆる“卒業証書”のことを「学位記」といいます。日本大学では、日本大学全体で行う卒業式とは別に学部等ごとに学位記授与式を行って、卒業生に「学位記」を授与します。

このように、学位は、学部等ごとに定めた「教育研究上の目的」の下、本学で特定の専門分野を学修し、一定の教育課程を修めた証しとなるものです。

》さらに専門分野を追究

学部で専門科目を勉強し、さらに専門分野の知識を深化させて社会に出たいと感じたり、研究者を目指したいと思ったら、大学院という進路があります。

大学院では、修士（大学院博士前期課程〔修士課程〕）、博士（大学院博士後期課程〔博士課程〕）、あるいは専門職（大学院専門職学位課程）の学位取得に向けて、学修・研究することになります。修士以上の学位は、一定の専門性を有する人材としての称号だといえます。

ディプロマ・ポリシー
卒業認定・学位授与に
関する基本的な方針。

就職に強い日本大学

卒業後の自分を思い浮かべたことがありますか。

日本大学は111万人を超える卒業生を有し、数々の先輩方が社会で活躍しています。その証しとして日本大学出身の社長の数は2万人を超え、30年連続で日本一を誇ります。

だからといって「自分も簡単に就職できる」と安心してはいけません。大学での学びをスタートさせる前に、自分が「将来、何をしたいのか」「何になりたいのか」をイメージすることが重要です。そして、そのイメージに少しでも近づけるよう自分自身を磨いてください。自分自身で考え、動くことができる人間こそ、社会で求められている人材だからです。

実際、就職活動の面接では、自己PRや志望動機はもちろん、大学時代に何をしていたのか、大学で自分をどのように磨いて、社会に飛び出そうとしているのか、そして自分がどのように役立つことができる人間なのかを問われます。つまり、学生生活を充実させることが重要なのです。

そして、その経験を自慢できるくらい語れば、自ずとゴールは見えてくるはずです。まずは将来のための自分づくりに積極的に励み、様々なことにチャレンジして、多くの貴重な経験をしてください。

日本大学では、学生の就職活動を万全の体制で支援すべく、各学部で数多

くのプログラムを用意しています。例えば、学生が誰でも利用できる「NU就職ナビ」には、毎年約1万件にも及ぶ企業からの求人情報や、16万件の企業情報、OB・OGの有無、先輩たちの就職活動報告など、就職活動に役立つ情報が掲載されています。

また、最近では、インターンシップに参加する学生が増えています。3年生を対象にしたものが多いのですが、低学年向けのインターンシップも増加しています。積極的に参加して、社会や企業がどんなところなのか、働くとはどういうことが肌で感じてください。

このような支援プログラムに参加したり、就職指導課や「NU就職ナビ」を利用したりして、自分の希望する未来のために日々研鑽しましょう。

(学生部就職課)

求人件数：11,653件

産業分類	産業別求人状況
農業	0.4%
林業	
漁業	0.1%
鉱業	
建設業	10.5%
製造業	16.9%
電気・ガス・熱供給・水道業	0.2%
情報通信業	14.3%
運輸業	2.5%
卸・小売業	17.7%
金融・保険業	2.8%
不動産業	1.9%
飲食店・宿泊業	1.6%
医療・福祉	8.2%
教育・学習支援業	2.6%
複合サービス事業	1.0%
サービス業	19.3%

※平成26(2014)年度